2－2－18)。

次に，公立小学校教員の年齢構成をみると，昭和51年度の平均年齢は42.4歳となっている（「義務教育課調査」(昭51))。

この年齢構成を男女別に年齢別構成でみたのが図2－2－19である。

男女教員について最も多いのは45歳～49歳の14.8%であり，次いで40歳～44歳の10.4%である。

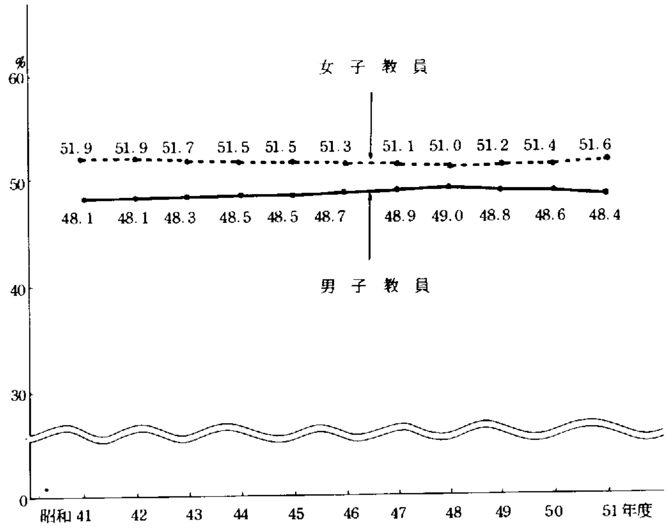
これは，男子教員に対し40歳代の教員の占める割合が51.9%と半数以上を占めることになる。

女子教員について，最も多いのは45歳～49歳の14.4%であり，次いで40歳～44歳の8.9%で40歳代の教員の占める割合は45.2%となる。

また，公立小学校教員の年齢を全教員でみると最も多いのは45歳～49歳の28.6%で，次いで40歳～44歳の19.1%であり，全教員に対して40歳代の教員の占める割合が47.7%とほぼ半数となる。

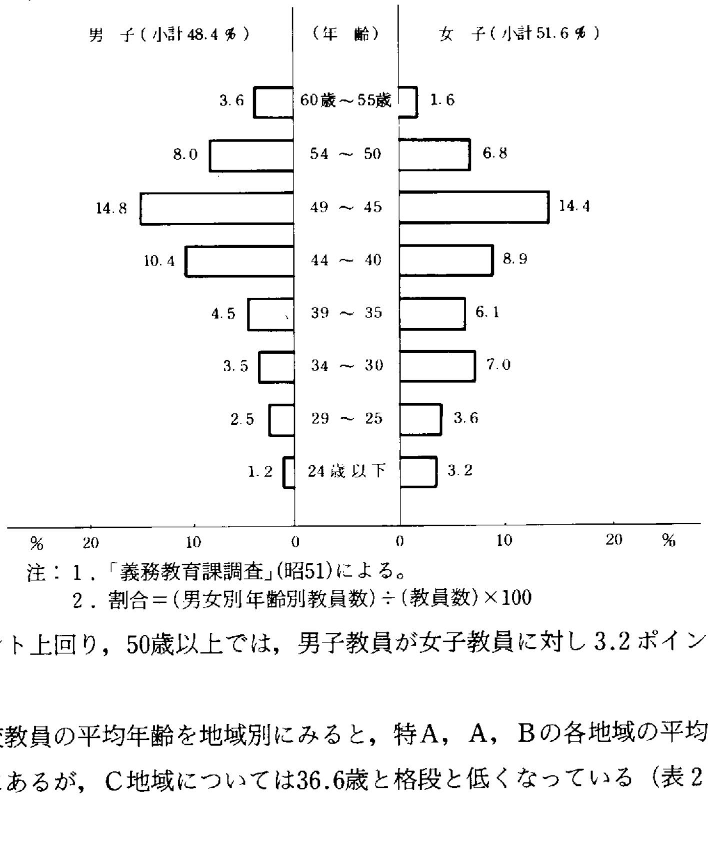
なお，29歳以下では女子教員が男子教員に対し3.1ポイント上回り，50歳以上では，男子教員が女子教員に対し3.2ポイント上回っている。

図2－2－18　公立小学校教員の性別比率の推移



注：1．「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。
　　2．比率＝(性別教員数)÷(教員総数)×100

図2－2－19　公立小学校教員性別・年齢別の割合



注：1．「義務教育課調査」(昭51)による。
　　2．割合＝(男女別年齢別教員数)÷(教員数)×100

次に昭和51年度の公立小学校教員の平均年齢を地域別にみると，特A，A，Bの各地域の平均年齢は41.5歳～42.8歳の範囲にあるが，C地域については36.6歳と格段と低くなっている（表2－2－7)。

また，昭和49年度の公立小学校教員の平均勤務年数は，男子教員21.8年，女子教員19.6年，男女合せての平均が20.7年となっている(「教育調査報告書」(昭49))。